

施策評価表(平成19年度の振り返り、総括)

作成日 平成 20 年 7 月 1 日

施策No.	19	施策名	バリアフリー社会の推進
主管課名	社会福祉課	主管課長名	四十万 隆一
関係課名	商工観光課、建設課、都市計画課		

施策の目的 【対象】	市民 高齢者 障害者	対象指標名	単位	17年度	18年度	19年度
		人口	人	46,913	46,723	46,459
		高齢者人口	人	11,083	11,266	11,576
		障害者人口(0~64歳)	人	983	987	940

施策の目的 【意図】	障害者や高齢者などの弱者に対する偏見がなくお互いに助け合う思いやりの心を持っている。誰もが自由に安心して出歩くことができる。家庭内で不自由なく暮らせる。	成果指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	22年度目標
		障害者などに何らかの手助けをしたいと思っている市民の割合	%	54.7	57.1	59.5	70.0
		-1歩道の再整備(段差解消)率	%	2.4	5.0	5.8	
		-2公園トイレのバリアフリー化率	%	53.8	59.3	59.3	70.3
		住宅のバリアフリー化助成件数	件	144	101	124	

成果指標設定の考え方	市民に、障害者などに何らかの手助けをしたいと思っているかを聞くことにより、どれだけ市民が、偏見がなく、お互いに助け合う思いやりの心をもっているかがわかるので、これを成果指標とした。 歩道や公園、住宅のバリアフリー化がどの程度進んでいるかを見ることで、誰もが自由に安心して在宅生活を続けたり出歩いたりすることができるかがわかるので、これを成果指標とした。
------------	---

成果指標の把握方法(算定式など)	企画政策課の市民意識調査により把握。 建設課、都市計画課の資料により把握。 歩道の再整備率 = 段差解消延長 ÷ 段差延長 × 100(工事台帳より)公園トイレのバリアフリー化率 = トイレのバリアフリー化済の公園数 ÷ 都市公園数 × 100(都市計画課公園台帳) 社会福祉課の資料により把握。 住宅のバリアフリー化件数 = 高齢福祉の住宅改修助成件数 + 介護保険による住宅改修件数 + 障害福祉の住宅改修助成件数
------------------	---

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民	全ての市民が障害者、高齢者に対する理解を深めると共に、お互いに助け合う思いやりの心を持って、手助け等積極的に協力していただく。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 心のバリアフリーを進めるため、青少年を含め市民に対してボランティア参加などの啓発活動に努める。 バリアフリー社会推進の啓発を行う。 公共施設のバリアフリー化の計画的な実施と維持管理を進める。 高齢者や障害者が在宅生活を続けられるように、ケアマネジャーや事業者と連携して風呂やトイレなどの住宅改修を支援する。
	その他	

施策No.	19	施策名	バリアフリー社会の推進
19年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)		
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)		
	H19年度に障害者の実態を精査し、実態把握に努めた結果、障害者数の減少があるので、いちがいに過去の実績と比較はできないが、バリアフリー全般の意識向上もふくめての一定の成果があると思われる。		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)		
	歩道のバリアフリー化率は、近隣の黒部市、滑川市では未整備の状態である。 公園トイレのバリアフリー化率は、平成18年度では、黒部市が37.5%、滑川市が23.5%となっている。 (詳細はデータ不足のため不明(県等に照会し、実態把握に努めたい。))		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)		
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取組み内容を中心に記述)		
	【意識啓発】ボランティアセンターの設置(百楽荘内)とボランティア連絡協議会の育成。 【歩道のバリアフリー化】市道上村木カーバイド線の歩道バリアフリー化工事の実施。 【公園のバリアフリー化】 【住宅のバリアフリー化】高齢者の住宅改修(実績120件)及び障害者の住宅改修(実績4件)		
	3. 施策の課題認識及び20年度の取り組み状況(予定) (19年度末で残った課題、既に20年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)		
	【意識啓発】魚津市には各種ボランティア団体が多数あるが、現在のボランティア連絡協議会に加入している団体・個人はごく一部であり、ボランティアのネットワークの強化と市民に見える形の活動拠点整備が課題である。そのため、社会福祉協議会と連携しながら新しい活動拠点整備について検討していく。 【歩道のバリアフリー化】歩道バリアフリー化工事は高齢者や障害者にとって日常生活を営むうえで重要であり、引き続き市道上村木カーバイド線の歩道バリアフリー工事に取り組む。		

施策の トータル コスト	区 分	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績
	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	3			
B. 事業費(事務事業の事業費合計)	千円	2,686				
C. 事務事業に要する年間総時間	時間	740				
D. 人件費(C×1時間あたりの平均人件費)	千円	3,041				
E. トータルコスト(B+D)	千円	5,727	0	0	0	0
効率性 指 標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の	円	57			
	F. 事業費(定義式: B/46,723)					
	同上	円	65			
	G. 人件費(定義式: D/46,723)					
同上		円	123			
	H. トータルコスト(定義式: E/46,723)					